

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800220		
法人名	株式会社エルエス		
事業所名	グループホーム香椎下原		
所在地	福岡市東区下原2丁目15番31号		
自己評価作成日	平成29年3月7日	評価結果確定日	平成29年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

自然の中で四季折々の季節が感じられ住宅街に囲まれた環境に立地して今年で開設5年を経過しました。地域の方々との関係も出来ておりホームの前の道は犬の散歩やたくさんの方々の通り道になっていて挨拶やちょっとした声掛けも出ています。又ホーム横の公園には見事な桜の木があり春にはたくさんの花が咲くので花見等が出来ます。敷地内にはテーブルと椅子を用意してお茶をしたり畑の野菜等の草むしりや収穫を楽しんでいます。新しく住居が建ち、小さな子供達の挨拶や声に癒されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い新興住宅地の中腹にある2ユニットの事業所は併設に小規模多機能事業所と隣接に住宅型有料老人ホームがある。近隣の方も利用もあり、3施設で高齢者の状況に応じて、通い中心や住宅型や入居へ対応できる環境が整えられている。事業所から公園の桜が見え、散歩時は挨拶し地域の子供達の成長が見える。小規模東区ネットワークに入り、他事業所の運営推進会議に参加し、違い等を見つけて月1回職員会議し取り入れている。外部研修の年間計画を作成し、内部へ伝達研修も積極的に行われている。「自分や家族を当ホームへ入居したい(させたい)と思いますか？」と職員のアンケートを取り会議したり、職員は自分達の親と思ひ介護し、入居者のレベルも落とすたくないという関わりを深く持っている。地域の防災訓練に参加したり、地域との連携も積極的に取り組んでいる今後も期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に唱和し管理者と職員はグループホームの理念を確認し、実践にいかせるように取り組んでいる。入居者様や訪問者の方々にも見える位置に掲示しています。	昨年、職員全員で話し合い、地域に関してを取り入れて作成したグループホーム独自の理念が玄関とリビングに掲示され、毎朝唱和している。月1回のカンファレンスでも職員が気づいた事等を話し合い、理念を振り返り具体的な実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に利用者様と参加させていただいています。公民館行事、子供の段ボール回収、町内会草むしりなど。グループホームの秋祭りには年々地域の方々の参加が増えています。	町内会に入っており総会にも出席し、町内会の夏祭りに見物に行ったり、行事にも参加している。事業所の秋祭りを公民館だよりや回覧板に掲載し、近隣の参加もある。演芸ボランティアの訪問もあり、小学校の依頼で車椅子を貸与したり、玄関に長椅子を置き、通りすがりの方も気軽に介護相談が出来る様に配慮されており、地域の方との交流も積極的に進められている。	地域との交流も深められ、保育園との交流し、事業所内で歌や太鼓の演技を見せられていたが、今は少し途絶えている為、再度保育園との交流や関係づくりを進めたい意向である。今後交流を深め、情報発信や自治活動への関わり等の取組みをより広められることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方々に参加していただき、入居者様の日常生活の様子等を報告させて頂いています。地域総会で小規模多機能管理者が認知症についての勉強会を行い参加しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、入居者様や施設の現状を知っていただき、参加者様他からの意見をいただき、サービスの向上を目指しています。	運営会議議事録は、家族全員へ送付している。家族の意見は面会時に個別での意見が多く、職員がその都度回答し対応している。車椅子の方が2階が多い為、1階に部屋替えはとの意見で、部屋替えを行い、様子を見て、入居者が落ち着かなくなり、2階に戻った経緯もある。意見は其の都度検討し対応され、事業所の運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に福岡市の行政の方が参加された。「これからも、質問や相談事があれば遠慮なく連絡ください。」といわれた。すぐに行政と連絡を取れるような協力関係を築いている。	介護保険の更新申請等は直接区役所に出向いて手続きを行い、馴染みの関係の構築は出来ている。包括支援センターや市から、空き情報の連絡で紹介や入居に繋がったり、FAXで研修会の案内が来て、職員が研修を受けている。生活保護の方も9名いる為、保護課とは連絡・相談を密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のカンファやミーティング時に毎回話し合いをしている。日常業務の時にも、身体拘束になっていないかを、職員同士で確認しながら入居者様に接しています。	年間の外部研修計画に位置づけ、内部へ伝達研修を行い、毎月カンファレンスの勉強会後に、言葉に関する具体例を挙げて話し合いも行なっている。最近「認知症対応のグループホームに入居しなくてはならない状態になった場合に自分や家族を当ホームに入居したい(させたい)と思いますか」のアンケートを取り、全体会議で話し合いを行い、サービスの質の向上に繋げている。	

H29.3自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のカンファやミーティング時にまいかい話し合いをしている。日常業務時も職員が言葉使いや行動を意識しながら、職員同士が注意を払うように意識づけに努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様が利用されていたので(現在退去)後見人の方に講習会を開いていただいた。内部研修でも勉強会を開き、必要性を学んでいる。	司法書士による研修を行ない、職員の理解を深めており、今後も毎年研修予定である。説明用の資料やパンフレットも常置し、家族の相談に対応したり、専門家に相談や連携出来る体制が整えられている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、利用者とその家族の不安がないように十分な時間を設けて説明を行い、本人、家族からの質問に答え施設側の意向も十分に説明を行い納得していただいた上で契約をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置、外部機関のポスターを掲示。運営推進会議に参加されている利用者、家族の方々に意見を述べていただいています。	苦情相談のポスターを掲示したり、意見箱を設置しているが、運営に関する意見は殆ど無い。家族の面会時等に個人的な要望が多くその都度対応し、敬老会の後に家族の交流の場を設けている。	敬老会の後に家族交流の場を設けられており、今後は交流会を家族からの意見を聞き取る機会として、継続開催し、法人からの満足度調査やアンケートなどを行ない、意見の抽出を検討されてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の社長同席の全体会議で、意見、提案を出し、社長自らが答えてられるので、解決が早い。が、持ち帰り後日管理者を通しての回答ある。場合によっては、個別に説明対応が行われている。	月1回の全体会議で話し合いを行なった後、各ユニットに分かれて話し合いを行ない、職員の提案や必要物品等の購入もすぐ対応出来ている。調理時間が掛かり過ぎる為、もっと時間短縮や簡略化し、介護時間を増やしたいと提案し、現在は法人で食材事業所を変更して、利用しながら検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	退職金制度が設けられ、安心して働けるように配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては、性別、年齢などの理由で採用条件から排除しない。定年年齢70歳までとし、長く働けるようにしている。資格取得や研修により、能力発揮できるようにしている。	約37歳～69歳の職員がおり、職員の採用に向けて年齢や性別の制限は設けられておらず、ほぼ正社員で、ほぼ全員がオレンジリングを取得し、資格取得に向けての意欲も高い。職員の資格取得へ向けて休みや、希望休等も取れる環境で退職者も少なく、安心して就労されている。	

H29.3自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者ご本人様が出来ることはして頂きながら関わりを持ち、その方の人権を尊重するように、常に職員が意識するように、業務中や会議で話し合っている。	昨年は「ふくふくプラザ」の出前講座を利用し、事業所内で職員と入居者も一緒にスライド等で視聴し研修をおこなっている。今後も人権や同和研修を年間研修の1部に位置づけて取り組む予定である。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画表を作成し、内部研修を行っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の勉強会や研修に参加しサービスの向上に努めています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人はもちろんであるが、認知症のため、居宅支援、いきいきセンター、医療機関の相談員、看護師、家族からの聞き取りが殆どである。入居後、本人様の様子観察しながらくみ取る努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時、入居申し込み時、ご本人様面談時に質問・相談・要望等に耳を傾け、疑問・不安を解消できるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所された際に、「何が今必要か」を本人・家族と話し合い、訪問診療・訪問歯科・デイケア・訪問リハ等の利用を含めたケアプランを作成しサービスの導入をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話をしながら本人様の生活歴をふまえ、本人やりたいこと・やれることで役割を持っていただき、職員と他の入居者との関係作りを働きかけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加の依頼・他科受診等、無理のない範囲でお願いし、家族と利用者ホーム一緒に利用者を支えているという、安心感を持つる関係作りを努めている。		

H29.3自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのディケア利用の継続や以前生活をしてきた場所での友達等の面会を受け入れ、その時の関係が続くように努めている。	以前の医療ディケアを継続利用されている入居者も5名いる。ケアプラン送付時に入居者の写真と現状等を一緒に家族に送付し近況報告し、関係が途切れ無い様に支援したり、自宅で掃除好きの認知症の入居者が、事業所でも掃除をされている為、身体状況に合わせて、職員の見守りで安全に、掃除を継続している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	輪に入れていない利用者がある場合、お世話が上手な利用者と一緒に声掛けしたり、利用者同士で声掛けあっている時は、様子を見守り場合により対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様に連絡を取り、近況を教えていただいたり、お見舞いに行ったりし、今後の相談や支援を行なっている。ご家族がいない場合は、病院・施設に連絡を取り面会をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを利用したり、本人や家族からの思いや要望の聞き取りを行う。困難な場合は職員から様子を聞き参考にして、本人の思いに沿えるように努め提供している。	入居時に管理者が基本情報を聞き取り、アセスメントシートに記入し、入居時は1カ月で変更したり、3カ月や半年や状態変化時や介護保険の認定調査結果も参考にしている。意向の確認は家族や本人から聞き取ったり、日頃の会話の中や表情等で職員間で話し合っ、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前からの生活の流れとしてディケア利用を継続したり、ご家族様に情報を提供して頂き、なるべくこれまでの生活ができ、ホームでの生活に慣れて頂けるように配慮している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活、身体状況を介護記録や連絡ノートに残し、毎日の申し送りやミーティング時に職員間で情報共有し、現状の把握に努めている。又、気づきがあれば、その場で話し合うようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成は利用者の状態変化に合わせて、その都度見直しを行なっている。サービス内容の実施が出来たかをモニタリングにて毎日チェックしている。	職員1人が入居者1~2人を担当し、介護計画は毎日職員がチェックし記入している。月1回のカンファレンス後に、各階の職員で話し合いを行ない、担当ケアマネージャーがモニタリングシートを作成し、介護計画を作成している。	モニタリング表はケアマネージャーが作成しているが、今後は担当職員によるモニタリング作成を検討されている。ケアマネージャーの負担軽減や、担当者職員にも出来る役割を担ってもらうことで、よりいっそうのスキルアップや意識付けにつなげてはどうか。

H29.3自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、身心状況は介護記録、ケアの実践・結果は毎日のモニタリングチェック表に記録を行い、連絡ノートを活用し情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や希望で併設の住宅型や小規模多機能から入居や逆にホームから住宅型に移られたりすることもある。家族の代わりに病院受診や買い物などの支援もやっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館との交流、イベントボランティアの受け入れ、入居者と地域を交えた消防訓練を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者はホームの2か所の協力医の往診を受けていますが、かかりつけ医との関係も継続できるように、定期受診の際は職員が付添いを行っている。	提携医の月2回の往診や、歯科や皮膚科の往診もあり、常勤の看護師による日頃の体調管理も行われている。通院は基本は家族対応になっているが、家族が事情があり対応できない時は職員が付き添って受診し、その後家族へ状況報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医療機関の担当看護師と当ホーム看護師が中心になって、24時間体制で連携を図っており、介護職への必要な助言や相談が出来る。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ協力医療機関に入院して頂く事で病院関係者との情報交換がし易く、管理者とソーシャルワーカーと常に連絡を行い、出来るだけ早く本人の為にホームでの生活に戻れるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医・看護師を含め、ホームで出来ること・出来ない事を話し合い協力し、本人の状態により看取りを受け入れるような体制を作っている。	事業所で入居時に看取りが出来る事を説明し、重度化された時に再度主治医を交えて話し合いが行われる。事業所でまだ看取った事例はないが、看取りの意向で取り組み、その後元気になられた入居者がいる。看護師が外部研修に行き、内部で伝達研修もおこなわれ、職員も看取りの概要は掴めている。家族用の簡易ベットも準備されている。	

H29.3自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命の講習を受け、カンファ・ミーティング・内部研修でAEDの使い方や痰吸引器の準備の仕方の講習をしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間・昼間想定した消防訓練(1回は消防署立会い)を実施している。ともに入居者・家族・地域住民の方々に参加を依頼し、一緒に訓練を行っている。	地域の防災訓練に職員が参加している。地域の方や町内会長も参加し、春と秋に昼夜想定して防災訓練を行っている。終了後は全体会議を開催し、次の防災訓練に備えている。100食以上の備蓄や飲水も備え、災害時は地域の方に住居提供も出来る体制が整えられている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファ・ミーティング・内部研修にて常に職員に意識づけを行っている。人生の大先輩方であり、自分の親だったら、自分だったらと置き換えて接する事を心掛けている。特にトイレ介助には気を付けている。	毎年、法令順守や接遇等の外部研修を行い、その後内部に伝達研修を行なっている。「もし自分だったら」と考えて、一人ひとりを尊重した声掛けにも注意し対応している。入居時に写真の同意も取り、事業所内には沢山の写真が掲示されているが、外部に写真は出していない。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の体調や気分を見ながら本人が望む過ごし方が出来るように職員が働きかけをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大体決まっているが当ホームの「個人個人に合わせた介護をしていきます。」にあるように利用者の心身状態を見ながら無理強いせず希望に沿った支援に勤めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容が月1回ある。居室に洗面台があり鏡の前で整容・髭剃り・化粧をされたりしている。外出時は職員と一緒に外出着を選んで頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パン食を希望される時にはパン食メニューにしたり、外食レクや近くの喫茶店では、出来る限り自分が食べたい物を選んで頂いている。食後の片づけは、入居者が率先してして下さる。	事業所の畑で種蒔きし収穫した春菊やニンジン等の野菜も加え、業者より食材等を購入している。入居者ももやし等の下ごしらえやテーブルやお盆拭き等を手伝い、職員が調理している。行事食や治療食にも対応でき、調理時間を短縮し、介護時間に回せる様にとレトルト食品の利用等も考えられている。外食も多く、喫茶店に行ったり、天気の良い日は駐車場でおやつを食べたり楽しまれている。	

H29.3自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はチェック表で確認し必要量は確保できるようにしている。食事は外注でカロリー計算がされており、主治医に相談しその方に合わせた量・形態で提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人個人に合わせた口腔ケアを実施。定期の訪問歯科による口腔ケアと磨き方の指導を受け、治療もして頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを排泄チェック表でつかみ、誘導や利用者の状態に合わせている。夜間帯のみポータブルトイレを使用している利用者がある、使ったり使わなかったりされるのが、ご本人様の排泄場所はご自分で決めていただいています。	血流や腸の為に、毎朝コップ1杯の水で嗽し飲んでいる。排泄チェック表を作成し、摂取水分も記入している。声掛けも周りに聞こえない様に声掛けしたり、トイレを嫌がられる方にはさりげない声掛けで誘導して介助している。オムツと大パット使用の方が、排尿間隔を把握して夜間もトイレ誘導したことで、小パット使用となり負担金額の減額が図られた。排泄の自立支援、改善へ向けて意欲的に取り組まれている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝コップ1杯の水分を取って頂いたり、運動・腹部マッサージをし、便秘にならないように心掛けてはいるが、薬に頼らないといけない利用者もいるため、主治医に相談し対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴。入浴を拒まれる方には無理強いをせずに時間をずらしたり、日にちをずらしたりし、希望に沿った入浴を実施している。	広くて明るい浴室で、かけ流しの個浴で、好みの湯温で入浴できる。看護師の勤務時間帯の10時30分～16時に入浴し、皮膚観察等もしており、車椅子の方は職員2人介助で安全な入浴を行っている。シャンプーや石鹸の持ち込みは自由で、入浴をコミュニケーションの場と捉え、職員と一緒に歌を歌ったり、会話が弾み本音も出ている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間はないが、音や照明を徐々に落としながら、安眠できる雰囲気作りをしている。休息は自由に居室で出来るように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表は至職員が回覧し捺印をしている。捺印後は個人記録にファイルしている。。変更の際は連絡ノートに記入し申し送り時に口頭で伝えている。場合により業務日報のホルダーにはさみ、常に確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自出来る事やご本人様からの申し出により手伝って頂いている。買い物や外出で気分転換の支援をしている。		

H29.3自己・外部評価表(GH香椎下原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天気具合によって外出の予定日でも出かけたり、花見や潮干狩りや山笠等時期・季節ごとに予定を立て実施している。	天気の良い日は、事業所の周囲をほぼ毎日散歩したり、喫茶店にコーヒーを飲みに行っている。車で出かけた先で散歩したり、寒い日等も車窓からドライブを楽しみ、志賀島を1周したこともあった。温泉に行き家族風呂を貸し切り入浴したこともあり、工夫を凝らした外出の機会は多く、楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が難しいため、ホームでご家族様了承のもとお預かりしている。希望があれば、職員と一緒に買い物に行ったりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様からの訴えはないが、ご家族からの電話や手紙等は取り次いだり、読んで差し上げたりする。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の壁を利用して、季節感が出るような壁面工作や行事の思い出を貼っている。クラシック・唱歌等耳障りにならないようにし、ゆっくりとした時間を過ごして頂けるようにしています。	各ユニットの玄関に大きなソファがあり、運営会議事録や今までの行事のアルバムのファイル等が置かれゆっくりと腰掛けて閲覧できる。リビングは大きな窓で明るく、雛飾りが飾られ、廊下等には外出行事等の大きな写真職員がひと言を書き添えて掲示されている。入居者の折り紙等の作品も飾られ、暖かい雰囲気を作られている。調理場からリビングが見え、調理しながらも見守りが出来る環境である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き利用者様同士でお話を楽しまれたり、玄関にソファを置き、ひとりの時間を過ごし易いようにしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	貸出品以外の生活用品は利用者の状態を見ながら、危険のない範囲で使い慣れた物や好みの物を自宅から持ち込みをお願いしている。	居室はフローリングの床で、窓も大きく明るい。電動ベットやクローゼットやクーラーや洗面所が備え付けられている。持ち込みは自由で、今まで使っていた物を持って来て貰っており、仏壇やテレビ、椅子、テーブル、キャビネット等を持って来られる方もいる。写真等の馴染みの物も飾られ、居心地良い部屋づくりがされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や共用部分には手すりをトイレには「便所」お風呂場は「風呂」と掲示し、意識して頂けるように、各居室の入口はご家族様了解のもと写真やお名前を掲示させて頂いています。		